

# 神小だより 第4号



特色ある取組等(神領小学校H.P.)

## 「失敗」を恐れず「挑戦」したことで掴んだチャンスと得た力

6月8日に行われた県体操発表会には、県内各地から総勢384名の子供たちが集いました。大会は、技を極めた子供たちの参加で、活気に満ちあふれていました。名西郡を代表して、本校から17名の子供たちも本大会に出場しました。発表開始の合図とあいさつには、これまで取り組んできた姿勢や意気込みが表れて、凛とした姿に感動しました。大勢の観客がいる中での演技は、緊張した面持ちでありながらも、果敢に挑む気持ちが前面に出て、堂々として立派でした。

できない技ができるようになるには「挑戦」をしなければなりません。しかし「挑戦」すれば、必ずといっていいほどたくさんの「失敗」を経験します。頭の中で思い描いたように身体が動かず、あきらめかけたことがあったかもしれません。「失敗」をして、辛い思いをしたかもしれません。

毎日できない技と真剣に向き合い、できるようになるために、悔しさを味わいながら「挑戦」し続けて乗り越えた経験は、何ものにも代えがたいものとなり、これからの学習や生活の道しるべになることでしょう。結果に関わらず、努力した過程、果敢に挑戦する気持ちを認め、励まし応援する大人でありたいものです。

失敗を恐れて動けないことが失敗である



「挑戦」の先に知らなかった自分がいる

6月11日からスタートした放課後水泳教室。本校では、5・6年生の全員が参加をし、体力の向上と郡水泳能力検定会への出場を目指し、水泳に取り組んでいます。子供たちは、それぞれの力量や目標に合わせてコースに分かれ、精神力や技能を高めています。挑戦する子供の姿は、真夏の日差しの如く眩しく輝いています。「長く泳げない」「速く泳げない」などの困難に直面したり、「息継ぎが上手になりたい」、「バタ足のキックを強くしたい」と目標が明確になったりするなど、様々な課題や願いをもちながら、奮闘する毎日です。

「挑戦」を、自分を成長させるチャンスとして捉え、努力を積み重ねて奮闘する子供たちの姿を見て、自身の小学校時代の記憶が呼び起こされます。「大人になっても覚えている小学校での場面はどんなことですか」と問われたら、真っ先に思い出されるのが「水泳特訓」です。今から40年以上も前のことになり

ますが、私はその頃の事を、今でも鮮明に覚えています。当時、運動することはすごく好きだったのですが、泳ぐこととなると、周り比べてできない自分を隠すために、失敗したくない、かっこ悪いという気持ちばかりが強くなり、言い訳ばかりをして逃げていました。結果、4年生の時には、10メートルも泳げないくらいの泳力でした。

5、6年生の時に会った担任の先生からの「できない自分と向き合え!怖くない、安心しろ。まっすぐ身体を伸ばしておけば絶対に沈むことはない。気持ちで負けるな!根性で泳げ!息継ぎは少なめに。8ストローク・ワンブレス、口から吸って鼻で出せ。大きく肩を動かすことが大事、肩甲骨をスムーズに回せ!後ろの景色をのぞき込むように息継ぎをしろ!」などの言葉が、驚くほどに今も次々と頭の中に浮かびます。その言葉を頼りに、できないことができるようになるための努力を重ねた経験を振り返ると、その中には、人生を輝かせるためのノウハウやヒントに溢れていたことに、今更ながら気付きます。

水泳を通して、子供たちは「挑戦」の先に知らなかった自分に出会えることができたでしょうか。努力の過程を大事にして、水泳で培った精神力と、掴んだ自信をこれからの日常生活に活かしてほしいと願うばかりです。

全員参加で切磋琢磨し、子供の可能性を引き出そうと全力で関わってきた体育主任をはじめ担任・担当教員の指導力や、「あきらめず挑戦する」といった子供たちの心の強さ、保護者の皆様からの後押し等が相まって「神領小ならではの教育」が成り立っていると実感しています。今年度の名西郡水泳能力検定会に出場する子供たちは27名です。検定会は7月21日(月)四銀いしいドームで開催予定です。大きな舞台に臨む子供たちに、温かいエールをお願いいたします。